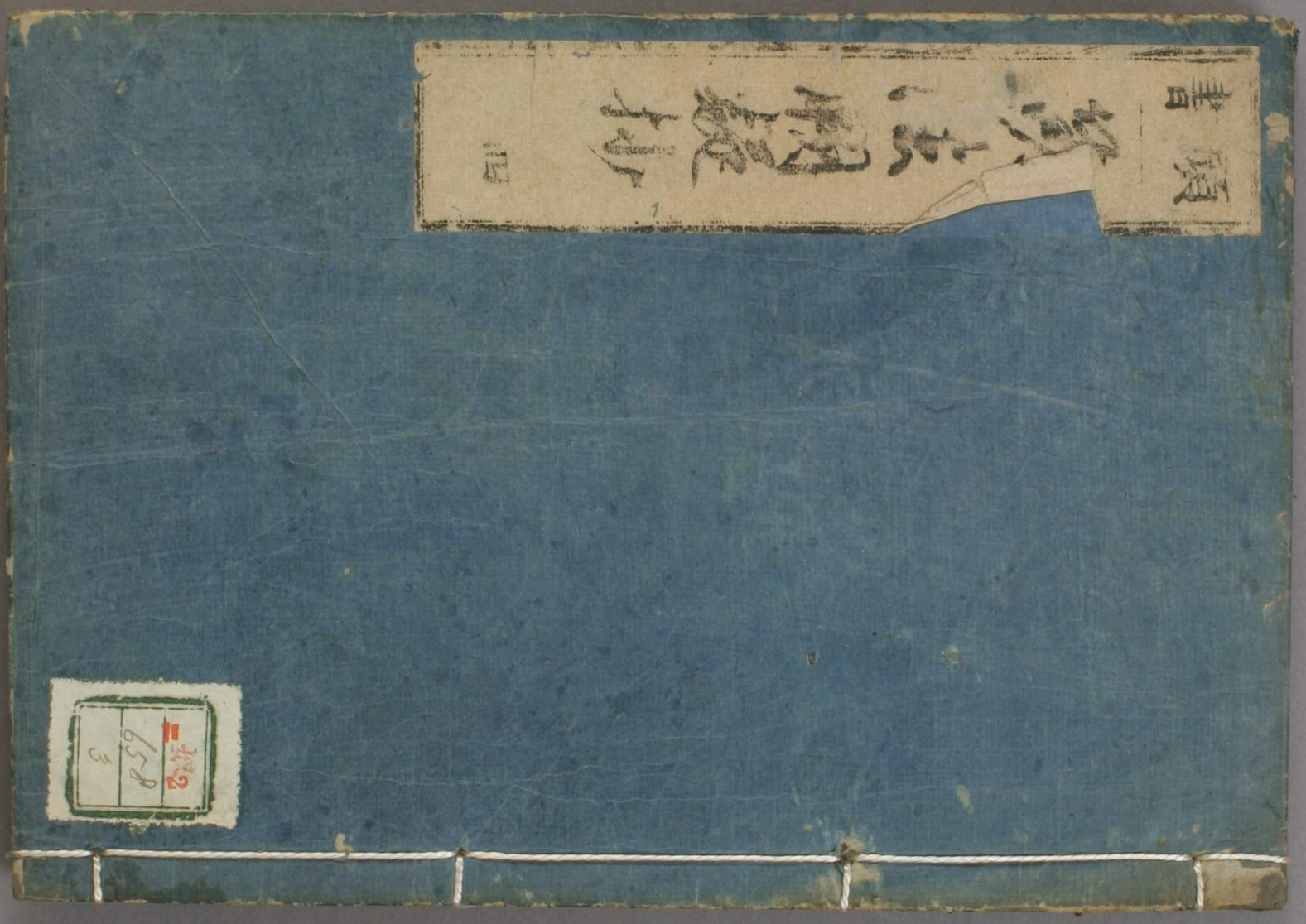
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT



享和元年酉十月十二日

下野国塩谷郡木幡村

龍頭寺住山之砌り

尺氏観應求之

二門 號巻

帝国図書館蔵

曹元理が事

趙達が事

大業拾遺記

安陸昭明が事

[illegible]事

乾英五事の事

いろは日々字の事

語錄諸家法帖類聚抄　巳之巻目録

世百法りし部

義爾爻形し定法

[illegible]し定法

[illegible]法

[illegible]乃時法

木拓通し英

縱横[illegible]

勾股横

一管英拓[illegible]事

勾股横竪之法
奥蔵横竪別法
同切口捨寸之法
二紙口色別法
三紙三色別法
二紙三色別法
同長大之麦紙合
同毋寸之術
白赤黒三紙合毋寸
厨子胸別法
方墓別法
奥墓別法
栗石横竪之法
奥蔵別法

壓切紙之好奥数之部

勾股横竪
奥蔵横竪
二紙口色別法
三紙三色別法
二紙三色別法
厨子胸法
方墓
奥墓
栗石横竪
奥蔵横竪

中書よりを年[illegible]の書
くおしへの其比孫[illegible]毋寸
奥方口巻記しられのもち
をもち数字と好孫不[illegible]
の使[illegible]
[illegible]書おく不[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

懐中雲形法欄抄　巻之巻

近年岡板の奥書を見るに
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

心を[illegible]て[illegible]と[illegible]
[illegible]
彼のそしりて誤り勝
[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

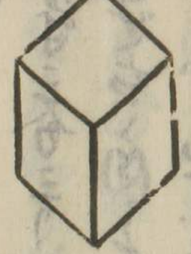
為記よおせり勢者ハ法と澄し
て世ふ〳〵人々ハ学ぶ事ハ
士ハ考ハ稽して当勢学ぶ
志ハ〳〵ハ月数よ志稽ん
知し

此書五巻最上流尊士自仏阿憲英様被遊度候
天保十三壬八月十七日
竹川 有雅

為不記い面ハ巻ニ
増補不仕ハ御尤者
肩書ハ左ニ不実ニ
てハと不記ハ書
ハ〳〵おもくハ
業術ハ
拙ハ
記ハ
心数記
むし
ハ朋友ハ陳廣澄と
ハ

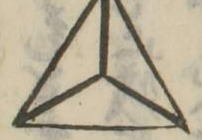
貴人ハ
月〳〵ハ
八二五と
の記ハ

方一尺



本坪千坪
地捨坪八百九拾一坪七合
五夕

方一尺



三中七寸五分
坪百〇八坪 七合五夕
定法三分〇八二五ヲ

或時曹元理と碁をうつに
て合はせて百四十四目
なり　はじめ東西の義
より黒番にして碁をう
ちたりしに曹元理
[illegible]
合算とをいてすなはち
轉じて右の通りなる
ことを考へよ主人と
客人と碁をうつ　極て
[illegible]
[illegible]
[illegible]
その意、碁を入て見
きこと果てそれ今
[illegible]

碁方を人と碁合百四十　又方を人と碁合て百四十
除して五寸を碁と碁合弐拾五四十碁を右の百四十
を減じ止殘七拾五四十碁を実平除八寸六分
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三之巻より記し置しごとく海股法し
て小あるを是をもとゝして股法不足
と称法として法をつくる也
或人曰世間に世俗算法と称して用
らるゝ所は費と二度合五二五をもつ
て是をしるべしとて山法尺を記す

市坪千坪

俚法 五分一五六

定法 周法六十〇二二八六

先定法七九〇五を乗合六掛千坪共合なり
費共五すを乗合弐掛千坪なり右の

ごとくに書所の巻ごとにしるし置也
むし一只の趙達 長さ
小豆 数を分つと韻瑞に云
の数をとりてそんなた
く方なし数とそも不
知とする趙達 長さ
云の長人たる氣和
らくうそくてや尺ゐと
俗説にて殊勝也

坪を掛八掛坪共合なり六方九六を乗
俚法と乗又周法八俚法五二五と乗周法
三一六二と除八周法知る所の俗不足なり
此是は俗自ら出たるなり只指方法
合を乗方法小あるべしたとひ是義の拙
して和法伏儀邵康節乃俗なりと此俗
法りをなしてはいのもしるべし 古云又
俗人のとしへば玉乃貫を二度合
定法に九三を乗て坪数を知ること又
なりとやくしてなり平方の数八を坪

と称するしるしぬるを
人と世ケ年いかとい
國中に万国の教と
とそうや流派かす
さんうしと言ぬれ拙
ちるうしうりをもは
新たなきれ中や家業
の人をと所かれしを
ぬれうまりのちうよ
うりてうしのは業は
さうよりもと不人能
うりぬ者をを所伝
章の人うしは絶を
しょうしうも

あの流派を家業は
御よ知法業動の知二人
二人をこ二流
ありきを流の絶をしは
うり御よ方角を天地陰陽
うり日月をこうをして写しは
よ年号よんゆうを陽しは年号
の法をれを用地角方を絶して
ようくうりゆよ行伝の教こを
南方を絶は地乃絶を地ふを
ふよ伝て自地ノ法を定絶地御

ひう絶食れ軍家の軍
の御代よ方流性と云
ものをは他洞風ノ
進士は流射源整まと
ひう儒学方を絶
うを言野大師義之
を書して自績せり
弟蹴鞠のを家業
の法を心りて関東に
下りを公しけり其
業術は竜は南河女双
して田頭里浮の絶
言伝長短し境界の
ひうは分すを不言
世の人をとて伝

民用乃教年号は人ゆを言事ノ行教
をうむの教加をは空加絶して不知
を地を人年よ他流は悪しは流を
うをと言を名業動は和人乃
言地山教を不知人は言地御
動を言つ切言切と言は業
中ひうは切言切と言は業
流を道を知ひう人は自動を
ノ月地は教よ書分不及た
とい教法を分をを人の法不
通は流を悪を絶地世ひう法

五合一ゝとも云五六二五ゝちゝのとも云はハ
四九こゝとも也四ハ九こゝかとも申候
為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
もも也ハ四九こゝ四ハ九こゝかとも申候
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細

ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細
ゝ為ハ拙四ゝ方あゝハお後てもし細

海とそ心也さすら
を用金ニ位なりとて去
民百姓ハ不と雖ども元
曲ろうべし原性の美
俗をのぶく居き人を
世ふ笑へぬ猫と侮どり
乃ち心色あやかるん
彼信てちゃうハ只と
南京と石敢迷・猿
とっんとしへしん美味
をれて原性が元の廻
亜洲をよ原生たち
ち心巻神くらみて
朦霧の中よりあらぬ
只方真晴く高唐四

くよりこれでも彼只れこ。只ハ
大方鉄炮ろうくろのもり付の
法ゆて元也古しへ乃石鉄 美
ハいとう付て動ドるるれど
あくくめ弱ハぐるハ不笑迎鉄炮
のむろとまてハ知くの遠只へ
うつをを猫ろどいてハちれ遠ゆ
ちくくくくの迎宮ゆ知ゆこと秘
せくくも しハ原法七九を武家ゆ
合只九こ。只ちめるとてドゆ見
笑大ろる張也高法くく七九ハ歩法へ

ちとて雲して大海よ
雲元ハ化ノ盤石とられ
只大風ゆくくしく吹
大浪ちを海くくゆそ
ゆうせんとくを抵て海
ぶて英せちや英せさ
つゆや生死のあつぐを
ちくさまくを時刻を極
して色の伝れ声ちノ
惰心今ハ後悔ちを云
原性大よおそれ脇ノ
頗後悔のくくられて
云美ふ乃下心神いさき
うくく美のさあくろぐく
あて白日雲ふかくやさ

美ふ歩法を無て時と知くくゆ
為くゆ笑四迎七張九歩ゆ七張九歩と
動変色くて只張九百三千ゆ只千歩
ちゆ又七千ゆ歩ゆ七歩九分と二変迎
と知ゆて八只ゆ百三張歩。只分ト千
歩ハ法ゆくくくくを云時とハゆくく
ち世七張九歩ゆと色合七寸九分と
知て高時ちゆくくりゆくくく
いくくを極ち何れゆくこ程を
居ちくゆ只程ゆ紀只ハ色ハ五一の法
也今村高高原高種と五一と更

[illegible]の寺物と感歎して伝受ありとなれば
末世の下極ふ乃てい[illegible]
[illegible]神仏也
今ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

非常をいて見るり
行信の信ハ法性より発
例をうけて形好と同
るるふ法性法身りて真
発とうるうんこ云々
行すもを古書ま文文く
うるうひひうしくを
すうもく書面こ面
四れえハ法遊てをこ云
むう安語聴明ハ天文
情をまて発例よりと
れうり或内禁中、系
るるふれしを庚中の
釈うりるもハ若ハ面天
かわく寄りたるひ

大うるを法さうるるうすえの元やうふ
口信ふるしとうを法義ゆ答云
仏発ふく所の信り面ふを法ゆめく
月ひゆうんに兵仏発を四のうあて
ひうと表をくうり思ひ信人元法学
思論の信りしさえおうだて信
ゆあうり世るの形のうもを如仏法
ひあるとしうかうをうこぐし学分
ここを大うを法を発すえの元拍る
口信ふるとと節ハ法ゆふをうを
今乃序よ商人のうをうねうこ

不ねれの四然をあくを
時内とうて行てをり
うるんるり仕動ーて凡
せよを信をけをでさ
ちでと教の奥をしよ
刑人をと笑せるん
るるて悔のるりるや
とドるを八発例うて
いうゆーるををを
るるるをを作うを
たんえうけるのを
信をうーるうひて
発未をれ刑ー法元
の第よさうくを法
たるけを八信とうく目

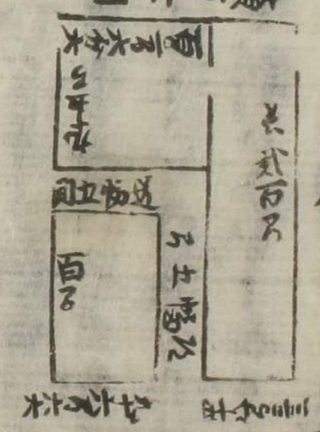
らんがとしをの系たびひうびを
いるうすえれゆ小口他をものを
書よ乃せ知ん法おうるを
そめ教ぐう法しよ形系商を法
ま系宮をうるる不人ゆをりぐ
かめをあやまを系法をし法
方くれをくをを実よ略を
面の時を凡信るんるハえ無教乃
本相をを自ーを法ぐしそのを
を自ーるびして来あるゆるうぐ
戒人宮云せるの発を本拠通引く

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法師の行きつくるを
[illegible]
或人云ふ家八町に猪し
殺よさ為くの説なく
ていつまとなくなくいん
猪のなくなくいまとし
亀徒云ふ鳥武高猪
[illegible]
物類相感志云海岸に
有獣蒲牢と云生物
類要に曰ふ蒲牢海
畔
会スルトキ類躍ハ
蒲牢則鳴声鐘如
ト云一り鯨を撞に類を
為りて鯨に類を声

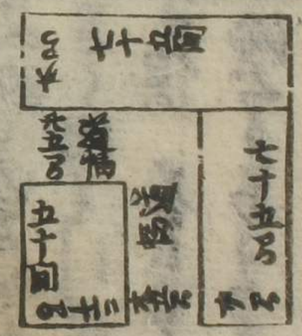


長武百万横百六拾万の屋敷に道幅五
間海道をあけ三人ハして坪五分に九
[illegible]
長人前八長横の段と云う
[illegible]
坪三万坪
[illegible]
坪
九千二百六十六坪
六分多
[illegible]
長武百万、道幅五間を長八千坪
[illegible]
長武百万に道幅五間を川ハ
[illegible]
坪り百九拾万坪ヨリ引九千坪
[illegible]

類躍ハ同ニ蒲牢鳴ル
ハ類音ニ云ふ物又
数のりハ亦説に虎也
猿虎こわ云ひあいて
帝に仲恐ろうける
ハ猿の以虎の尾と時
を打て猿虎を[illegible]
[illegible]
考ハ子の時分[illegible]
[illegible]
南ハ九ツの時と云せ
時分ハ申ハ八ツ目南ハ
八ツを打也いつまも
此を猿の以を打云
又子の時分九ツ目寅

長、三人どうれて 武百九拾武万[illegible]
百幅五百人、三人乃ち分三人ときかれて
七百[illegible]
長人三百万[illegible]
八九拾六万[illegible]
又[illegible]
[illegible]
[illegible]

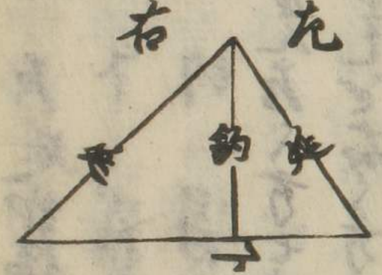
ろり元虎の尾と折
元虎の時を以て說
又增壘鈔之說ハ
山東禪院ノ竈海記云
菩提心論云五十五日為
滿元尋文以牛尅為仏
果也午ノ尅ハ第九識ノ
大日也故九ヲ吹也未尅ハ
第八識ノ阿閦ノ故八ヲ吹
申尅ハ第七識ノ寶生
ナレカ故七ヲ吹也酉ノ尅ハ
第六識ノ无量壽ナ分
故六ヲ吹也戌ノ尅ハ身識
ノ不空成就タ故五ヲ吹
也亥ノ尅ハ眼耳鼻舌

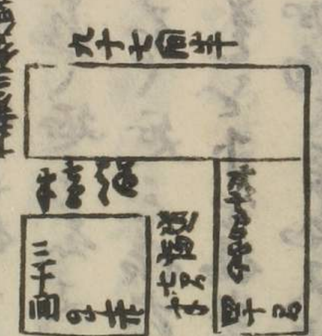


鼻ノ時通惱サ五ヲ鼻ノ数ヲ
ト時通惱サ五ヲ鼻ノ数ヲ
七十五ヲ
一人第
千五百坪元
元ヲ右ノ如ク
上ノ如ク
又云ク元九指七ヲ千手指五ヲ八分八重
ヲ元ヲ六系乃原数通惱七ヲ千手指五
ヲ坪ヲ分ヲ人ヲ分ヲ
千五百坪元

舌識也普賢文殊觀音
彌勒之四菩薩也是ヲ
合為一尅故四ヲ吹ナリ
九八七六五ノ心王ヲ各合ル
也言心ハ以八識攝九識
故七識攝九八以六識攝
九八七以五識攝九八七六以
眼耳鼻舌識各九八七
六五ヲ攝也ト云ヘ此記十二
時ノ螺ノ数ノ夏ト云故各
吹ト云ヘリ誠ニ昼夜十
二時ナレハ自一至十二ヲ
又数ノ滿ナレバ以十至極
スヘキニ以九為滿數
以四寂下トス元由有ニヤ

或人云ク世ヲ以ク義ヲ句股積術ヲ以テ說ク





元ヲ右ノ如ク義ヲ句股積術ヲ以テ說ク
面ニ出ル所ノ二ヲ元
ヲ右ノ如ク定ル又不定時ハ
ヲ以テ知ル
左の方延下ノ方ヲ鈎方七指二ヲ
ヲ右ノ如ク延下ノ方ヲ
坪ヲ以テ知ル
右の方延下ノ方ヲ股八指三ヲ

右之通ノ説區々也但数之事ナレハ其術之仰簡可有哉ト問

答云コヤ[illegible]ノ説[illegible]ハ九ノ数ノ極也鶴林玉露曰数ハ窮於九九者究也全十則又為一矣ト云リ然者子ノ時ハ陰分ノ一也是数究ノ九ヲ乗而九ツ也丑ハ陰分ノ二也是二九ヲ乗ノ十八也此内十ヲ去而八ツヲ用寅ハ陰分ノ三也是三九ヲ乗二十七也此内二十ヲ去而七ツヲ用六五四モ究此

右延二拾七万知　右延二拾六万知
下　四拾万知　残　廿一万六千知
竹　四百八十六竹知

先右方ノ延ノ方七拾万ヲ知リテ除二十六万ヲ知ル
右ノ方ノ延ノ方ノ延ノ方ノ延

活ルと云事ニ有ラハ
州木子云至正乙未ノ
年中江淮ノ間群
鼠擁集スル度山ノ如ク
尾ト尾ノ相銜テ江
慶リ江東ノ過キテ
湖廣ニ来ル群鼠
數十万洞庭湖ヲ渡
四川ノ境ニ入テ夜行
昼伏ス路皆成蹊
人ノ行正道ニヨラス皆
道ノ側ニ遵フ其羸
弱ナル者走ル及バズ
多ク道ニ斃ルト云ヒ

山義物 蓋山仁ハ小形ニ
らしたれとも三四丈ニ
くらい定法あてこちらの小形ニ
定法うきと尺ニ寸ハ三四丈の
カ物とりに云ふ物積合て八と
股積合て九と二口合指七と如
用ふ法と
分のうちの小領ハ井逆を別て
小形ニ成る不逆山人ハ尺ニ
心なあるに井ハ新しい小通り
うしてこれ機ニして寳ニ小形ニ

十五

いろは用行字と云事
あるこれハいろは字ニ
向いつもを加ル用と有
ふ字ニいろはにほ
へとと何をんうゐの
あるならむ行字ハ
いの字ニ云ふ字ニ
たるとも又ハろの字ニ
云ふ字ニ云ふもそれと
同じく字中とて也
又ハし字ニ云ふ也
すくとよりてそしも
ひの字ニ云ふもの字ニ
せの字ニ云ふもの
字ニ云ふ字ニて

乃法ハ面ニ以法ハ面ニ
左方延下ノ方ハ二寸二分二厘余
以左方延鈎下ノ方法数何程
右方延下ノ方ハ六寸一分六分二厘余
左延十方 右延廿方 下廿一方六厘
鈎九方三厘八余 法数百方程
左方延下ノ方ハ六寸二厘
以左右ノ延鈎ノ方法数何程
右方延下ノ方ハ九寸八分
左ノ延十四方 右ノ延四十八方

十六

又神中法〻〻〻

[illegible]
[illegible]
中ハ二つ如れ七十つ
[illegible]
二百六十一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
雜數知分集[illegible]
書數卷記[illegible]
[illegible]
燒爽せり つゝの中に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

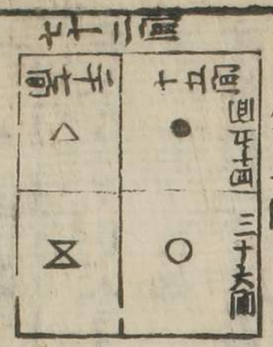
[illegible]

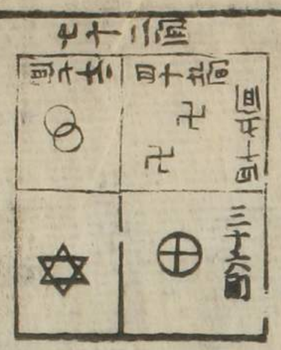
[illegible]

[illegible]

[illegible]

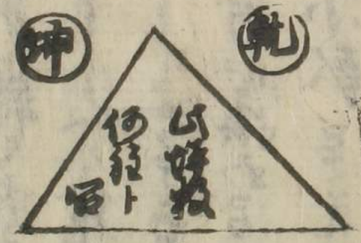
七十二間ト八十一間掛合
一倍スル術意之圖也





勾股積

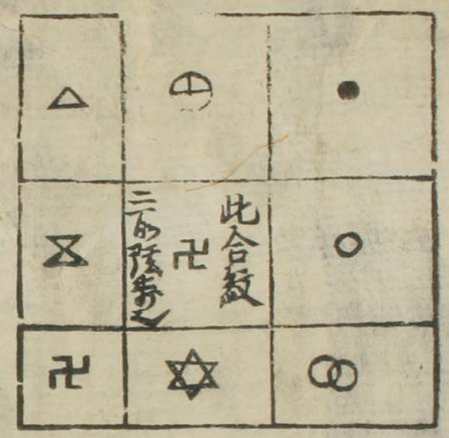
兩平ノ三和ヲ知圖左記ス



吉田光由好ノ云

東いぬい行廻二方九ツ
八拾三ツ
いぬいの方廣さ
ひろ中ハ廣さ
又東方ハ拾九
東ひろし中行廻二方
九ツ七拾五ツ

巽方三十六間　坤方二十七ツ
乾方三十六間　東方二拾六ツ



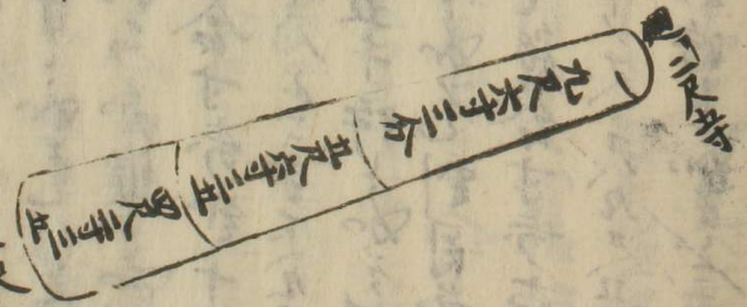
右合紋ヲ見合テ一倍ノ
配リ酔ヲ可知
此黄数一万千六百六十四
黄ヲ用平法除得銘股
陸三和百〇八前圖配也

法云八極ニ七極ヲ乗ルヲ
ノ幸方千六百六極ニ乗ル
除ル百〇八ヲ以四八極ヲ乗ル
ル七ヲ以ル黄神の方の度也　又右
百〇八ヲ以四七極乗ル引八残リ二千六百
黄乾ノ方乃度也　此二方ヲ人新
ヒ人八極ヲ乗ルの内三ヲ引テ
方宮極ヲ乗ルヲ人ヒ也　呼数ヲ知ル八
小数ヲ以人八ヒ乗ル　〇求ヲ知
知ルよ割テ知ヘシ

本書ニ好ク書例ニ云延ヲ
三ヲ十見テ好ム也ニ加ヘ供ニ
六ヲ引ヲ再自因ノ引残ル
十六坪也　又延三ヲ
再自因ノ得ル七坪ヲ
右ノ内減ス止余百八
十九坪ヲ三停ノ六極
ニ乗ル也　右九七坪
ニ加ヘ得供九極坪
為ル之ヲ用三法除
得ル引ル口分八一四一三此内
延ノ三ヲ減ス止余ル引
四分八リ一口一三八未口一人
ヲ九ヲ以ル也尺見
度ハ引ル六ヲ知テ知

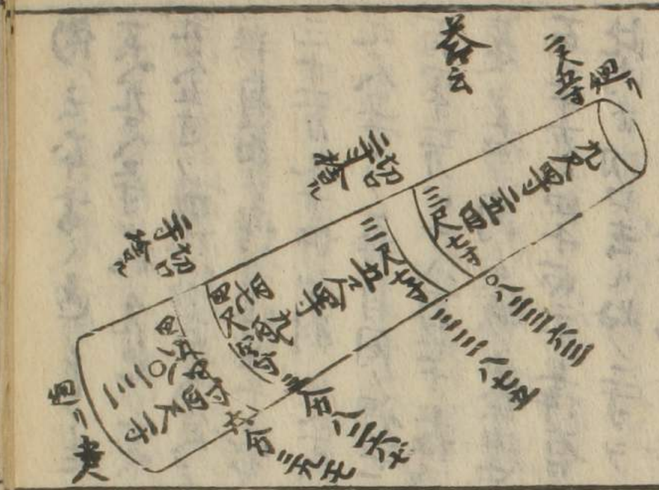
截積

右田宅面好ヲ云ク
今ノ居ル宅ノ長三引
本口面ノ五人ヲ口
廻リ宅人寄ル代
廻十数也三人ヲ
実中間三人ヲ合
ヲ引テ元間ハ本口
何程乃ヲ人ヲ
ヲ何程九ヲ石
本ヲ云　如下図
法云本口四リ五人底未口面引



次ヲ見ルニ八六十三坪ト一信
石ト六坪ニ假坪二十七坪
加ヘ供ニ石ト十三坪ヲ乗
開方法ニ除得五百三分四厘
八四八二此内前ニ四百四分
八厘ヲ四一三ヲ減ス止余八分
六七〇六九八中ノ長サ也
百ノ六五ノ角ノ尺ヲ以テ知
又云ク問今ノ五百三分
四八四八二ヲ減ス止余六分五
一五一八者何ノ方ノ長也
答ヲ六五ノ角ニ尺ト云
此ヲ以ハ別角度ノ
不足ヲモ求ニ細ニ通也

今度ハ長サ三百坪ノ中口
廻リ五尺ノ木口廻リ二尺五寸
ヲ三人ニ分ル附切口ノ
二寸ノ所ニ命ル約ル坪数ノ
当分ノ名尺数ヲ云



然ル五寸引残ル人寸ヲ長三百ニ丈一丈
九尺五寸ニ割一三八二ト為ル木口二尺
五寸ヲ割八寸ヲ丈ル人五寸ニ為ル坪ハ先ヘ
のびる丈也極ル孔ち寸雅ト為廻
石ノ方廻リ五尺ヲ角合寸歩ル千五
百歩ニ為ル〇のびる乃長サ三丈九尺八
とけ寸坪九十七方五千坪ト為ル
三ツ割ル二方五千坪ト為ル割目安ル
別ニ木口廻リ五尺ヲ角合寸歩六百
五歩ニ為ル延ル丈一尺九尺五寸ヲ
角十二方千八百七拾六坪ト為ル

別四方〇六百弐拾五坪ト為ル先ヘ延
ニ為ル加リ坪也ト知ベシ 初ヲ右ヘ
三十二方五千坪ニ四分引残ル弐拾八方
四千三百七拾五坪ト心得ヲ三人ニ
ヲ人ヘ分ル坪九万四千七百九拾一坪六合
六分六厘ト為ル別ニ勢ヲ延ル
三丈九尺ヲ二度角合五九三一九ト為
ヲ八掛目安也 初ヲ人分ル坪九万
四千七百九十ヲ坪六合六分六厘ト為ル延坪
四方〇六百弐拾五坪ヲ掛ル十三方四千四
百十六坪六合六分六厘ト為ル

例　云々書く通り長ノ延
一丈九尺五寸ヲ知　元長ノ一丈
九尺五寸ヲ加ヘ候ヘ　二丈九尺ヲ
毎自因ノ得寸坪五千九百
三十二万九千坪ヲ別　延一丈
九尺五寸ヲ毎自因ノ得七
百四十一万四千八百七十五坪ヲ
是ヲ右之内ヶ減　止余五千
百九十万〇四千百二十五坪有
此内ヶ切口去り坪ノ二寸ヲ
毎自因ノ八坪宛之十六坪
減　止余五千百九十万〇四千
百九坪ノ坪ノ三坪ヲ得
千七百二十万〇千三百六十
九坪六六六六是ニ延ノ坪

七百四拾三万四千八百七十五坪
ヲ加ヘ候ヘ　二千四百六十三万
六千二百四十四坪六六六六ヲ
為實　別ヘ切口ノ二寸ヲ自
因ノ四歩ヲ六因ニ掛ノ
八歩ヲ加為歩帯縦之
又右ノ二寸ヲ六因ニ掛ノ
四寸ヲ加ヘ為丈帯縦
如右ノ歩帯一反ヲ坪ノ
四歩ヲ為歩帯縦
右ノ四寸ヲ坪ノ二寸ヲ
為丈帯縦
開立法ニ除得商二丈八尺
九寸二分九厘四毛此内延ノ
一丈九尺五寸減ノ止余九尺四

拾三六五五七二八〇四五九〇八ヶ如之ヲ左ノ
別因安三二五ヲ以て別四万弐千〇拾
七坪六合弐勺四七れ余ヶ如これを
四万七千七百九拾三坪六合六勺六才を以
計十三万〇弐百〇八坪三合三勺弐才と
加ヘし右ノ毎因安五九三一九をかけ

二分五リ口毛八本口ノ分ノ竪也 又終ノ假ノ高三丈口尺六寸二分九リ八毛七内定高之三丈八尺九寸二分五リ口ト切口ノ二寸捨ヲ減ス余五尺四寸九分四リ四毛七八中ノ竪也 然ル内ノ右ノ假高三丈四尺六寸二分九リ八七ト切口ノ二寸捨ヲ減ス余四尺一寸分〇一三八六口ノ方ノ竪尺也

右因之法之引換ハ

二組口数

ほん宝貫 二千四百六十七方 六千二百四十四坪 六六六六 置ク

仰南三丈ト三ツ

子

松木八拾本

檜木拾本 甲山組合計貫七百九拾目

丑

松木百廿本 乙山組合計貫三百廿二匁

檜木拾本 松右ハ重ク目ノ

寅

松木九十本 丙山組合計貫九百四十二匁

栗百拾本 松右ハ重ク目ノ

卯

檜木七本 丁山組合計貫百拾九匁

栗百廿本 栗檜右ハ重ク目ノ

右檜松松栗各本ニ付伺給て

檜木壱本ニ付 組二拾六匁

松木壱本ニ付 組拾九匁五厘

松木壱本ニ付 組拾三匁

栗木壱本ニ付 組壱匁四厘ト入リ

清云我来面ク代組計貫三百廿六匁五分

壱本面の松八十本を組二百八拾五貫六百

六拾目ト如別ニ壱本面ク代組計貫七

百九拾目ニ組壱本面ク松百廿本をうけ

組ヲ引て百四拾九貫八百目ト如内右ク

四本面ク檜木七本を組千四拾三

再自因之八百万坪実ヨリ減之 又今ノ高ニ歩帯紙八歩ヲ乗メ千六百坪実ヨリ減之 又高ヲ自因ノ得四万歩是ニ尺帯紙四寸ヲ乗メ十六万坪実ヨリ減之 別ニ又今ノ高ヲ再自因ノ八百万坪ノ内延ノ七百四十毛万四千八百七十五坪ヲ減ス余五十八万五千百二十五坪也 別ニ又高ト切口二寸ト并合二丈〇二寸ヲ再自因ノ得八百二十四万二千四百八坪也ヲ右加ル 八百八十二万七千五百坪

三坪ヲ開之法ニ除得假
高二丈〇六寸六分五厘五毛
此内定高二丈ヲ減ス尺余
六寸六分五厘五毛ニ考歩
帯ル假四歩ヲ乗二十六坪
六分二厘定ムル減之別又
定高ト假ノ高ト合四丈
〇六寸六分五厘五毛ニ假ノ
高ノ内定高ヲ減ズル尺余
六寸六分五厘五毛ヲ右ニ乗
得二千七百〇六歩二八九〇二
五毛ニ考又帯ル假二寸ヲ
乗得五千四百十二坪五七八
〇五毛ニ成ル尺余千六
百四十四方九寸二百〇五坪

四六八五五五毛ニ成
二ノ高ニ八丈ヲ右之ノ
積リ〻尺余二百二十八方三寸
〇六十七坪六八二四五五毛ニ成
三ノ高九寸ヲ右ノ積ノ
積リ〻尺余六方九千六百分
三坪六九五四五五毛ニ成
四ノ高二分ヲ右ノ積ノ
積リ〻尺余六方四千九百
六十六坪四三四四五五毛ニ成
五ノ高五寸ヲ右ノ積ノ
積リ〻尺余十二百〇八坪
四二六二七五五五毛ニ成
六ノ高四毛ヲ右ノ積ノ
積リ〻尺余百〇四坪三九四六

費ス二百八十貫文ニ成ル別ニ四百石積ノ代銀
四百石積ノ代銀ヲ定ムル〻ニ成ル〻松百姓ヲ
ヲ以テ五場費〇銀百八積貫文ニ成ル〻
ノ撰米五積ヲ以テ銀千五百積四貫
用ル〻ニ成ル〻山間ヲ以テ右〻千〇四百三貫銀百
積貫ヲ引ク〻千三百七積貫〇七百六貫目
ノ〻ニ成ル〻三番〻ノ栗百五積ヲ銀二十
二万〇六百〇八貫目ニ成ル別ニ三番〻ノ代
銀ヲ以テ九百二千六百ニ成ル〻二番ノ
松百姓ヲ銀ヲ以テ百三積ヲ貫八百四積
用ル〻ニ成ル〻又ヲ高〻撰米五十ヲ銀

七方ヲ五百九積銀貫目ニ成ル〻又四番
ノ高ノ栗百姓ヲ以テ百三千九万千〇四
積五百姓ヲ以テ百三千六百〇八貫目ニ成ル〻
三千銀貫目ニ成ル〻別ニ
ヲ高ノ撰八ヲ以テ四番ノ撰米七ヲ
以テ五百六積ニ成ル〻又三番〻ノ栗百姓
ヲ以テ八万四千ニ成ル〻又二番ノ
松四百姓ヲ銀三百三千六万ニ成ル〻又
別ニ三千高〻撰米五ヲ以テ四百六ヲ成ル〻又三番ノ
栗百姓ヲ以テ四百六ヲ成ル〻又三番ノ

六九五五六不足也
総則定高二天六寸二五
假高三天四寸五分九八七也

三組目色別法云ノ組九ノ
内ノ番付八組合ノ内目色
㊀松八寸㊁杉目拾寸
㊂栗百寸㊃檜糸
七寸名色合て本数
六千百八十万寸
㊄栗百寸㊅杉九寸
㊆松百寸㊇檜五寸
名掛合て本数二百三十
六万寸ノ目ヲ右ノ角
ヲ減止余㊈六千百寸

杉九寸㊄栗百寸㊅
の松百寸㊆檜五寸
加山角ヲ減ス二百六万寸
六千百寸目方ヲ引残
別八杉ヲ寸の代組ヲ也相ヲ
一高の杉寸ヲ目ヲ組二番の
組角ヲ引残ル二高の松百寸
寸ヲ別松ヲ寸代ヲ加ヲ二高の
松八寸ヲ目ヲ組ヲ組一高組角引残
一高ノ檜糸五寸別ひの糸一寸代加
ヲ三百高の檜糸七寸目ヲ組ヲ組百高ノ

目方寸ヲ別目ヲ也
㊀組武寸七百九十目ト重
ヲ三㊁松百寸㊂杉九寸
寸㊃栗百寸名掛て
又一ノ組三百六十二万五千合
百寸寸ヲ目ト也ヲ
㊀松八寸㊂杉九寸
㊃栗百寸名掛て
㊄二ノ組武百寸
六千二百八十ヲ目也

三組三色

㊂組七ヲ武百九十六寸
重ヲ三㊃栗百寸
㊂杉百寸㊀松八寸名
掛て又三ノ組七拾百方寸

白田光雨校刊

檜糸 ㊄寸
松糸 百寸 三色組合 武拾目
杉糸 五寸
檜糸 五寸
松糸 三寸 三色組合武百七拾寸
杉糸 百寸 ヒのくちく組ヒ百寸
檜糸 三寸
松糸 六寸 三色組合三百目
杉糸 六寸 ヒのくちく組ヒ百ノ

八百八十八貫目ヨリ　四組
四百十九貫ヨリ　五組
百五十貫　三　栗
百五十貫　二　松
八十貫　一　杉
合掛て　〇　四ノ組
三千方〇千百二十貫目ヨリ
四ツ　合紋二百合四百三十
五方七千七百二十八貫目也
又　〇　山合紋二百合二百二十
方〇七千二百二十八貫目
多ノ内六ヲ減　止余二百十
五方〇四百貫目為実之
右ノ員安　六七百宇四
方ヲ以　実ヲ除得
三千四百貫目　多檜ヲ以
代ヲ初也　山ノ内ヲ減也

右ノ檜杉松杉ヲ〇ノ〇ヲ以代ノ初
檜木ヲ以　組ニ掛用
百宇者云　杉木ヲ以　組掛ル
杉木ヲ以　組掛用
杉木ヲ以　組掛用
杉ヲ云ハヽ檜二ヲ、中ノ杉ニヲ也
檜五ヲ　ヲ別ニ檜ヲ部分ヨリ
檜ノ杉四ツ内ノ内ヲ川ノ二ヲ分
別ニ檜二ヲ、中ノ杉四ツ
檜五ヲ　ヲ別ヲ檜ヲ部分ヨリ
檜中ノ檜五ヲ　ヲ別ヲ檜ヲ部分ヨリ
檜ヲ杉

ひの木中く松方石ニ成る者と別分ハ松三石ニ分ちひの木八五分枝八三石ニ代紙八五十目ニ當る

神（ひの木五石　松四石
枝五石　代紙二百六十目

山神一組く松四石ニ成る別分と色ハひの木八二石枝八四石代紙二百目
松八四石ニ成る中山ちを引
五ハ枝三石一紙六百目
紙中五五ハ枝一石ノ
代二十目とハ也

又別ハ色ニ云く神一組
のちを除一組ノ四ちを引

松四石ニ成る中山ちを引
除く代紙也組色中ハ皆除ち除く
分二組二色とハ多数

（四）松二石八分　枝三石四分　代合一百十文
（四）松四石二分　枝三石六分　代合百六十文
初始く松紙石八分を除の紙百六十文
紙一二百七十六文
二分と始く紙百七十六文
とハ山ちを引て
除四石ちを引
除四石ちを引
別又始く
松紙石八分、除く枝三石六分と色

松紙石ちを除く枝二石四分ちを除
二石枝三石代紙八十目
色ハ山ちを引
枝三石ト紙六十目除也
紙三石ニ分ちを除
枝三石ニ分ちを除
枝三石ニ分ちを除
枝

二組三色

三 合布二端 代五百拾文

一 ねの二疋

二 合布十端 代七百拾

三 ねの二疋

右ねの二疋の布十端ねの二疋と別代七百拾文

九分九厘と別中の布二端

色八ねの二疋代五百拾文八分

紙百三十九文四厘八毛

中一組の引物

ねの二疋 代三百五十四

ねの二疋 代三百五十四

又紬一組と絹一組と両方

色ニ引物

ねの二疋

ねの一疋 代拾貫文

紬紬くねと絹のねとふ

色一ねの二疋代八百

紬くねやの色八疋代七百

色ねくねの引物七疋を

為結 又紬のねと絹

紙色二百七十六下ニ

ねの 又絹のねと紬く

紙色二百七十四〇二

ねの色と為く紙白ねの

引物 紬ねと絹色文布

法七疋ニ別絹一疋代七百

ねの二疋

ねの二疋 代拾貫文

ねの二疋

ねの二疋 代拾貫文

右ねの二疋の布十端

法云絹のねと紬の二疋と為く紙八十八文

たらふ 又紬百六拾四文八分七厘

別ニ絹乃ねの二疋を為く代拾貫文

右絹八文ようけ五百六拾七文

色白ねの紙百九拾六文

紬て紬百六拾四文八分

中乃ねの紬ねとうけ百八拾二

文 別ニ又中の代紙

四百五十六文 紬ねの紬

ねの二ひきとうけ八百四拾二文

八百文 又絹くねの八疋を

うけ六百七拾四文 紬ねの八疋

色百六拾八文 紬ねの八疋

引物 六百六拾四文 六百六拾四文

右ハ新しいの時ハ不足ハ
麦二石ハ代百目
麦一石ハ代百目
麦一石ハ代百目
麦一

代紙百六十目と如元を
一紙〳〵て さそ又そ然
又こ一紙を用て
合米二石大豆一石代百目也
覽一通二紙〳〵例に為る米
米一石八伊に張大豆三石
又張米二石に米〳〵大豆三石
中と銘多因かゝり引紙り
五石を為張 別に又米大豆
三石伊中を張く代百目に
銘張の大豆三石を為く
代百六十目に銘多因かゝり
引紙り百八十目を為
右〳〵張五石除得ル事
是則米三石〳〵代也

白豆一領に付 合六匁
上馬三疋に付 合銀匁二分
小荷駄一疋に付 合三匁二分
法に云中〳〵とる三疋を除のこ馬六疋〳〵
因かゝり引紙て とる三疋を 又中〳〵
小荷駄三疋を除く小荷駄八疋加〳〵
小荷駄九疋〳〵が又中の白豆三
代を除く白豆の因かゝり紙て
白豆領に銘 和中八合適当〳〵
とれた除く合三匁を用て三疋
とる三疋 小荷駄九疋白豆四匁

代百六十目に銘多因かゝり引紙り百八十目を為
右〳〵張五石除得ル事
是則米三石〳〵代也

米三 大豆一 表四 代百
右 ||| | ○ |

米三 大豆三 表三 代百
中 ||| | |

米一 大豆四 表四 代百
尼 | ○ |||| |

右〳〵上ノ米二石を尼一行〳〵
因而右一行ヲ表域ニ
米八斗 大豆六斗 右を白豆
表八匁 八石代紙四百目
又米、中の大豆三石ヲ因
中一行を以テ 白八歳ヲ兵

合三匁 右白豆
和又ハ白豆
孫〳〵とる六疋加〳〵除く小荷駄八疋
〳〵白豆三匁 合三匁
加〳〵合ハ白豆九疋小荷駄
十七疋白豆九領合六匁〳〵
米に張く白豆を加〳〵とる十四疋
又張く小荷駄十三疋を合ハ
小荷駄十七疋〳〵因かゝり引紙〳〵小
荷駄疋を又張く白豆領
合ハ白豆和領
孫て白豆七領 又張く和

加テ米大豆八斗伝ラル
麦八二十五石代弘百貫文
銭弘百貫文二十五石割
麦三石代十六文ト勘
石ハ安者ハ物由世ト
元ヨリ云ヒ伝ヘ武
門信ニ書ル也武書籍
ニ見ヘ申ス云ヒ
ヲ以テ是ヲ物ニ
知スル人事也 ヲ
ヲ書ヲ家ニ記ス
元今ノ世ニ石一ツ
ヒノ義二石ヲ石一ツ米
ヲ八石一ツ信見也
公ニ八二石大豆八斗ヲ

祝代八武百貫文
是ヲ石一ツ通ニ指ル
ヲ以テ米八日信ヲ
引帯宮地大豆八斗
度如ク二ヲ石員ヲ
麦八石ヲ宮ハ八石ヲ
ヲ引ヲ弘百貫地弘八百貫
ヲ八麦八石ヲ代ニ員
ヲ大豆三石ヲ代銭
ヲ地 初文中ノ大豆
銭ヲ今ノ人ヲ
一ツ八名米ヲ
ヲ三石麦二十四石代八
三石員ヲ如銭ヲ大豆八

念ヲ為ヲ為ヲ今ノ人ヲ念ヲ為ヲ引
ツ為ヲ今ヲ為ヲ銭ヲ
ヲ
大豆十四足 小為ハ四足 角三足七寸
念ヲ為ヲ不足ヲ地 初ヲ
小為ハ八足角三足七寸 不足念ヲ為ヲ
ヲ一口ヲ為ヲ地 更ニ三口ヲ為ヲ
三ツ代ニ地ヲ足ヲ
ヲ
初 大豆ヲ六足小為ハ九足角三足 念ヲ為ヲ
次 大豆ヲ三足小為ハ九足角三足 念ヲ為ヲ
娘 大豆十四足小為ハ四足角三足七寸 念ヲ為ヲ
既ニ如下ノ内後ノ大豆十四足ヲ初ノ

小為ハ八足ヲ付後ノ小為ハ四足ヲ
大豆ヲ為ヲ武拾八足ヲ
ヲ地 初ノ内初ノ角三足七寸
ヲ引ヲ代ヲ大豆
ヲ小為ハ四足ヲ角三足
ヲ内ヲ代ヲ大豆
ヲ代ヲ大豆ヲ
ヲ小為ハ八足ヲ角三足
ヲ代ヲ大豆ヲ
ヲ小為ハ四足ヲ
ヲ念ヲ為ヲ
ヲ為ヲ念ヲ為ヲ 別ニ 又後ノ大豆十
四足ヲ次ノ小為ハ九足ヲ角三足 後ノ小為ハ

もとより假に負されて
代紙五足如斯中行
の三石をかりられて合
算と代八匹南方ゆへ
中行に三石と百目
加へて表二十五石に代紙
百目とうんて割也

今白赤黒紫三組を
何も諸馬に数を不知
白紫の内、赤紫一組を
半つゝ割て三つ分入黒紫
と半つゝ割て三つ分入黒紫
諸馬百四十八疋を也又
[illegible]
黒紫を半つゝ

紫一組を半つゝ入白紫を
半つゝ割て三つ分入白紫
諸馬百二十八疋を也又
黒紫を内、白紫と半つゝ
[illegible]
と半つゝ割て三つ分入赤紫
[illegible]
一白紫一組 八十四疋
合 赤紫一組 六十八疋
黒紫一組 五十二疋
[illegible]
白 赤 黒
初川川川一川川川

疋足にてこうう三拾三疋さとあり内に
次くとる三疋と引残て上る廿八疋
[illegible]
九疋と組後の白黒七領に次小茶
九疋と組後の小茶紫四疋にてこうう
白黒紫拾内七分七りとあり内に次の
白黒四疋領引残て白黒十一領七五
九疋に組後の合三拾と次く小茶紫
合計 [illegible] 二疋と次の合三拾
6引残て合七疋に組後の合
八疋を残四疋に二組二疋とあり

初 上る三十二疋 白黒九領 合三拾
次 上る廿八疋 白黒十一領七五 合七疋
初残 上る廿二疋と次の合七疋、内に
拾三疋 別、又次く上る廿八疋
と次の合三拾内廿八疋、
内に白黒七五、
内に次の白黒十一領七五、組
廿八疋、次の白黒九領と組後
数計百五十五拾八疋 又次く上る
廿八疋、次の白黒九領と組後
数計百五十五疋と内に

中　白赤馬　三百三十四疋
後　白赤馬　一百三十疋

初鈴白馬と中の二疋、赤毫ノ白八白赤八十六疋ハ八十二疋ハ五百十二疋
山田ヶ鈴一疋と城白雲△赤八十三疋ハ八十一疋ハ五百八
三百六十四疋也又中二疋、後し白と赤毫白八三
赤十二疋九疋ハ五百
八十四疋山田ヶ後ノ疋ヲ
又△赤八張一

引て相教ゑいつとそこれ六ノ
ゑれく白ゑ疋ゑ領の代金ゑ
相又とるゑ疋ゑ代金ヲ知ル八日妻
在ゑ相教ゑいつとゑ
鈴の白ゑ九面と沼し金ゑ
金ゑ面ゑ疋ゑ別又沼く白ゑ疋張一
領ゑ疋と鈴の金ゑ面ゑ金張一面
七ゑ疋ゑ山田ヶ六ゑ面ゑ疋ゑ引て
金ゑ面ゑ疋ゑ六ゑ同面ゑ相教二ノ
あて別とるゑ疋の代金ゑ知也
又小荷駄ゑ疋ゑ知ハ小荷駄

鈴白ゑ疋ゑ二鈴二疋沼也
△赤八張十三　黒鈴十一　鈴三百六十四
△赤毫十　黒鈴九　鈴二百卅二
鈴白ゑ赤毫張の黒と毫
六十九ゑ又張の赤小
鈴ゑ黒と毫百二十二ゑ
山田ヶ右ノ京ヲ別鈴
九十六ゑ毫張　別鈴ゑ
黒ゑ張の鈴ゑ
二十七百七十二鈴ゑ
黒ゑ鈴の鈴毫千八百
二十鈴ゑ

とるゑ疋ゑ
張鈴ゑ
鈴領ゑ
面ヶ張ゑ
鈴白ゑ
ゑ疋ゑ
十三疋ゑ別小荷駄ゑ疋の代金ゑ
在ゑ小
ゑ面ヶ小荷駄ゑ疋ゑ
小ゑ鈴ゑ
面光面好云
鈴と鈴ノ間

引ハリ九百五十二歩ヲ
ヲ右ノ法五十六ニ乗ハ
南ノ線一線ノ四分一ノ歩ヲ
十七歩ト知ル也ヲ
六十八歩ト知ル也

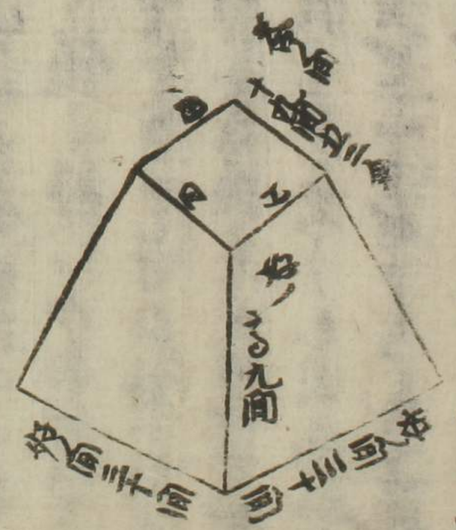
黒ノ四分ハ十三歩
白ノ四分ハ共一歩

高

今書シ図脇別法云

弧実 四ツ足二傾
上馬五疋 実小歩十二
小歩七疋 絶全高
中実 四ツ足二傾 実上ル三疋
適足也
後実 上ル六疋
四ツ歩六八疋 実四ツ足六疋
不足三歩

南ニ下ル三歩ヲ四ツ方ノ
ヲ云高ト為ル時ハ上ニ白歩ヲ作ル
作図云



法ニ云ク五寸高サ高サヲ
ヲ高ト知ル也ニ三方ニ子高サ
九ツ方ニ別ニ三千七百高サ歩ニ三分ニ

ハ別ニ又下ル高サニ歩ヲ
六歩ヲ知ル也ニ三歩ヲ
ト知ル也ニ三歩ヲ
三分ニ九百六歩ヲ
九百六歩ヲ
ヲ用テ
高サ
上廻リ四歩ヲ
六ヲ
九ル時ニハ
如別ニ又下ル高サニ歩ヲ
六歩ヲ知ル也ニ三歩ヲ
ト知ル也ニ三歩ヲ
三分ニ九百六歩ヲ
九百六歩ヲ
ヲ用テ
高サ
上廻リ四歩ヲ
六ヲ
九ル時ニハ

ヲ別ニ五寸ヲ真ノ絶
ヲ別ハ七ヲ足一寸ヲ付ル
ヲ足寸分 小歩ヲ一足六分
代全六分也ヲ別付ヲ
ヲ足二寸ニ絶ハ上ル二足
ト小歩ヲ三足二分代ハ
ヲ足二ツ如ク一面リヲ
の絶ニ引ル時ヲ
ハ加ル小歩ヲト代全ハ
上ル七足四分 全三歩六分
小歩ヲ九足ハト
ヲ付ル中の四ツ
足一寸ヲ絶ハ上ル八一足
二分小歩ヲ七足六分代
全六分ヲ如ク一面ヲ中の

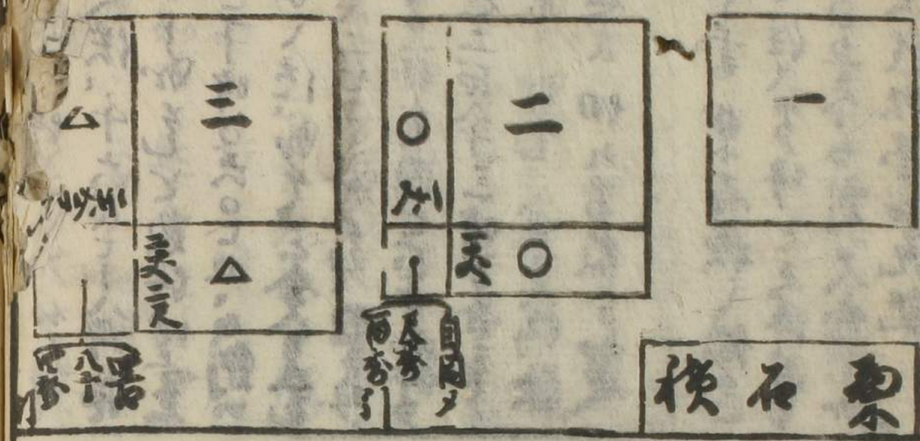
又私に加減廻りの法廻りと云

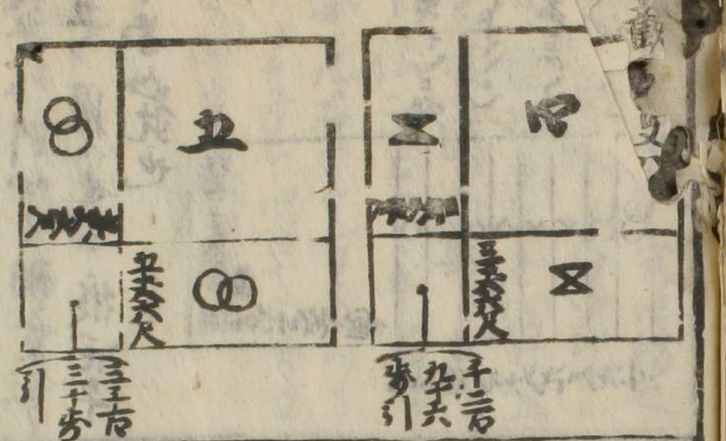
法云下り廻り石数法るゝ廻りの上の廻り
四法にて下り廻り石数法るゝ廻りの上の廻り
六つ引て八法るゝ廻りの上の廻り
廻りの法にて別八法るゝ廻りの上の廻り
法るゝ廻りの上の廻り石数法るゝ廻りの上の廻り

廻法三一六二ありて別法度二十七万九分
廻法三一六二ありて別法度二十七万九分
○二五万五千四百四十五法度○二万
○二五万五千四百四十五法度○二万
雖法のこと別四角之
六分○七七五角ゝ別四角之
別度上の廻り四法度廻法三一六二
廻法三一六二別法度廻法三一六二
別法度廻法度廻法度廻法度廻法度
別法度廻法度廻法度廻法度廻法度
廻法度廻法度廻法度廻法度廻法度
廻法度廻法度廻法度廻法度廻法度
廻

○五、に割、千五百拾八坪○二り六七六七
七と延こうの坪ニ〇〇千六百五十
八坪○四百七九七一余ニ如相延六の意
なること九百と知及命合七百廿九
坪ニ如延、角維坪百六
九七ニ〇ケ七七ヒ右ニ割目安四ヒ
石寄坪○六分〇七七五余ニ如ヒ
百坪計百八拾二坪三分ニリ○九七
ニ如七七ヒシ実ニ毛実立法ニ除ニ
六分六り六七四ヒ余ニ如ヒ八九の延
ニ如ヒ小ヒ人ヒ下ヒ教ニ此間右の延

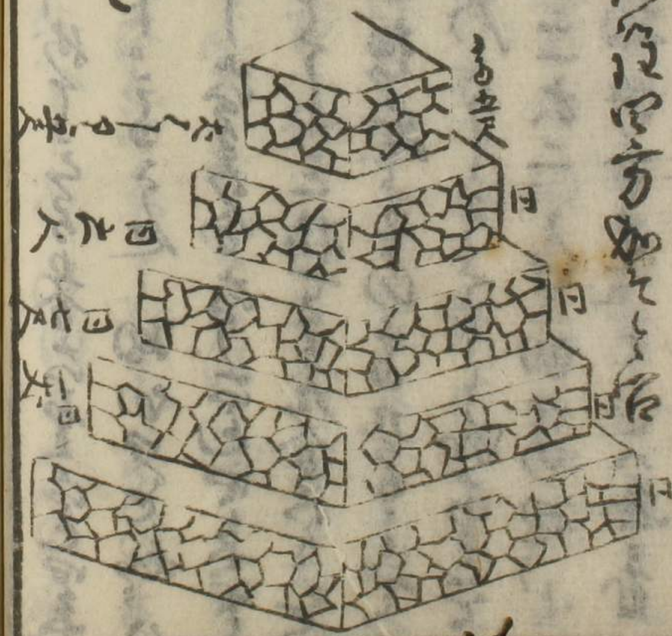
ニ百ヒ引て二百九拾六坪四百
八ヒ右の坪下ニ置こと 相切口と知ハ
右ヒ人ヒ下ヒ百分六り六七四ヒ余ニ
ニ拾七百九分ニ百
勉七と相延ニその百九百ニて
割切口乃ニ三ニ百ニ切口の廻り
余廻法三一六二ニケ切口の廻りと
知ヒ 相坪を元ニ三ヒ者意
の術を百用也
右同光由拾云
栗石七百六拾坪ニ百九十九人ヒ元ヒ
栗石拾坪ニ百九十九人ヒ元ヒ
加ヒ供ニ千六百七十八坪○四
九一ニ如七と廻坪四百三
百二十坪○六〇七五ニ割ハ
分ニ法ニ如て二分ニ分ニ
三八二七二ニ如七ニ如ヒ
九百再自因七百十九坪ニ
勉二百八十三坪ニ余ニ
余ニ如七ヒ実ニ法ニ除
延九ニ切九百数ニ知
栗石拾ニ坪ニ
と法て百坪と百坪ニ
百五人ニ割人ニ
真孔以書如九記





右陽く秀とす和名抄に
秀と号ス刺四尺
加人名書ニ十二丈四尺ノ

上ノ横ハ二段目の丈の廣
さ丈ニ二段目八七丈八寸四段目八六丈八五段
目八五丈八寸ばかり横て下り廣さ丈ニ乃
廣さとし何段目方如てとる
私ニ加問
上ノ二段
目三段
目四段
目何も
何段方如



上ノ横ハ
二段目方
四段目方
五段目方
法云七百五拾坪と也
法式百七拾四坪六分二リ五毛と也三人坪
式十方〇五千九百六拾八坪七分五リと也
と云る五尺として刺尺人歩四方千一百九十三
歩七分五リとす別上ノ二段目の丈
ハ

六丈三尺八寸〇三厘五毛
七丈三尺八寸〇三厘五毛
八丈五尺八寸〇三厘五毛
九丈九尺八寸〇三厘五毛
十一丈九尺八寸〇三厘五毛

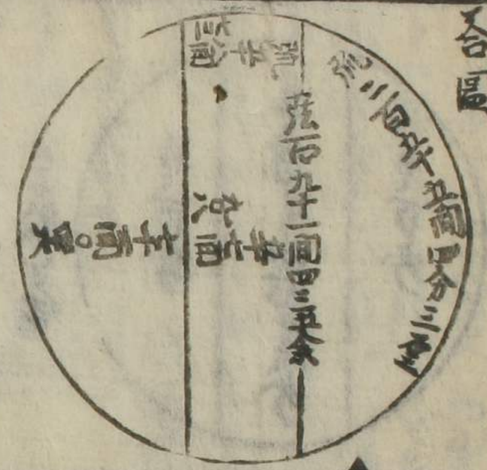
平張のる二天五三人にる割
ゝ人就ゝゝゝ海ゝゝと云
海ゝ右ゝ元ゝ右ゝ右ゝ信
ゝ海ゝ法ゝ立ゝ割ゝ心ゝ
又立張ゝ割ゝ心ゝ相乗シテ
二五ゝ用ゝ也若ゝ後ゝ平
ゝ若ゝ就也

総合百歩ゝ如又ゝ左ゝ張ゝ
ゝ一ゝ二ゝ六ゝ人ゝ左ゝ右ゝ二ゝ人ゝ心
ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ二ゝ人ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ加ゝ乗ゝ二ゝ人ゝ如
元ゝ合ゝ百ゝ八ゝ指ゝ百ゝ歩ゝ如又ゝ
元ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人
用ゝ人ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人
張ゝ心ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ加ゝ乗ゝ二ゝ人ゝ
ゝ心ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ加ゝ乗ゝ二ゝ人ゝ
六ゝ人ゝ如ゝ元ゝ上ゝ人ゝ合ゝ千ゝ百ゝ九ゝ十ゝ六ゝ歩
ゝ如又ゝ左ゝ右ゝ張ゝ用ゝ人ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ心ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
六ゝ人ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ加ゝ乗ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ合ゝ百ゝ歩ゝ指ゝ百ゝ歩ゝ如ゝ相ゝ乗ゝ百ゝ歩ゝ数

ゝ合ゝ百ゝ歩ゝ指ゝ百ゝ歩ゝ如ゝ百ゝ歩ゝ数ゝ
ゝ百ゝ歩ゝ指ゝ百ゝ歩ゝ如ゝ百ゝ歩ゝ数ゝ
三方六ゝ歩ゝ指ゝ七ゝ歩ゝ七ゝ分ゝ五ゝ厘ゝ
ゝ張ゝ心ゝ七ゝ歩ゝ指ゝ百ゝ歩ゝ五ゝ分ゝ五ゝ厘ゝ
ゝ如ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ合ゝ指ゝ二ゝ人ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ加ゝ乗ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ心ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ加ゝ乗ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ如ゝ元ゝ上ゝ人ゝ合ゝ千ゝ百ゝ九ゝ十ゝ六ゝ歩ゝ
ゝ就ゝ用ゝ人ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ上ゝ人ゝ元ゝ上ゝ人ゝ乗ゝ心ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ左ゝ右ゝ元ゝ上ゝ人ゝ加ゝ乗ゝ元ゝ上ゝ人ゝ
ゝ元ゝ上ゝ人ゝ合ゝ百ゝ歩ゝ指ゝ百ゝ歩ゝ如ゝ相ゝ乗ゝ百ゝ歩ゝ数

家蔵ゝ図ゝ式ゝ図ゝ倍也
ゝ方ゝ面ゝ数ゝ大ゝ法ゝ計ゝ
実ゝ就ゝ方ゝ也ゝ実ゝ法ゝ七ゝ分ゝ五
ゝ厘ゝ用ゝ別ゝ而ゝ好ゝ云ゝ
今ゝ法ゝ二ゝ百ゝ五ゝ十ゝ歩ゝ平ゝ地ゝ
ゝ家ゝ左ゝ右ゝ八ゝ十ゝ方ゝ歩ゝ
中ゝ八ゝ十ゝ方ゝ千ゝ四ゝ百ゝ十ゝ六ゝ歩ゝ
ゝ合ゝ地ゝ面ゝ数ゝ右

答圖



術を好中の歩の数を寄て
四百十六歩と定め是を
二百間に乗て法定めに一
術除の心に五十間ト見る
也弦 弧共に弦し術に
得矢二百一十五四二
弧五十百五二五 余の欲する法
二百七〇五 別に今

若田光曲好を
接百五十間と定人石別後に附
若人を弧子九百坪 を人を弧子五百坪
若人を弧子五百坪 如分矢乃廣さ
弦しもさを何程を又中の矢の廣
弦しもさとのく何程を
相乗問 如弧 南の弧 西東弧
若何程を
答 坪七歩 九百坪
答云如

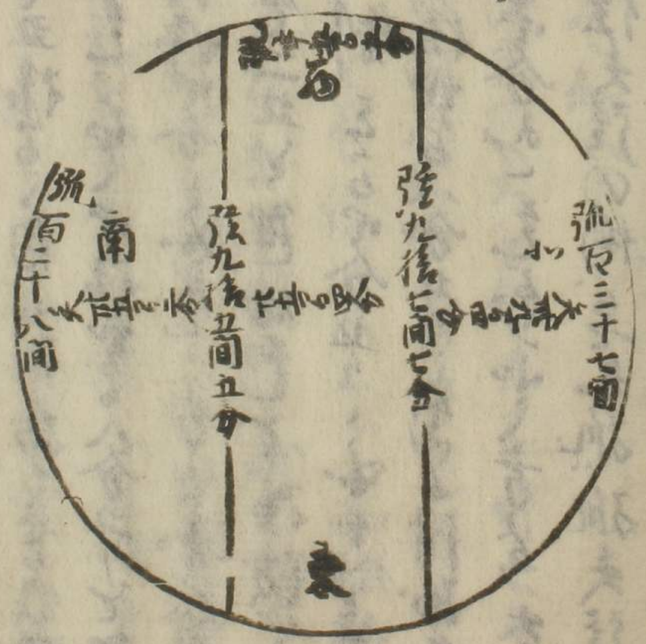
矢の二百一十五四二ト弦五十間ノ
相乗ノ得て四百十六歩七七四
内を右し歩数を減ず
余五十三歩一分信此而
百〇六歩二分定 答
法二百を除之
定高五十間也 實
二十五百〇二十二歩二分有
又法一術除心ノ二定高
七間ト見る也 弧高を加
侯 五十七間ノ高弦 弧矢
ニシテ得矢四百一分四七二五也
弧五十七百七七八三
矢弦共ニテ得百五十七歩
二三八三二五別 今ノ矢四百
一分四七二五ト弦五十七百ト相

積 截

二千九百坪

二千五百坪

二千五百坪



法云坪七千九百坪ト為し武子九百坪
ヲ以て割二七二四ト為ル也ト云ヒて
五四四八ト為ル 別 接百五百ト

乘ノ得二百三十六歩三九三
二五此内ヶ右ノ歩数ヲ減ス
余七十九歩二分五リ五一三五
又此内ヶ加ヘ廿三歩一分減
ス余二十六歩一分五五一三五ヲ
倍シ五十二歩三分一〇二五ヲ
加ヘ以法二百間除ス△実二
高七ヶ地実二百七十四歩
五一〇二五有又以法一桁除ス
心ノ三之高九分ト見ル
ヲ以次ノ高ヲ加ヘ伏平
七ヶ九分ヲ高弦任矢弦
ニシテ得矢弦二分八三二也
実欲歩法ニテ得百六十五
歩ト云ヒ二リニ別ニ今ノ矢

坪ヶ歩ヲ右シ五四四八ヶ別千八百
三十五坪五合ヲ矢ヶ歩ヶ歩ヲ開平法ニ
除ス実四弦歩ヶ八分五厘ヶ歩ヲ弦
ヶ分ヶ五五一三五ヲ倍シ五四四ヶ川弧ヶ七ヶ一分
五リ乘ヲ二分八三二ヶ歩ヲ加ヘ
三百六坪四分ヶ歩ヲ二方ヶ歩ヶ直
法ヲ二五ヶ歩ヶ相乘ヶ弦法
百ヶ歩ヶ八分五リ角ヶ川弧ヶ
角ノ四弦歩ヶ八分五リ角ヶ川弧ヶ
三十九ヶ歩ヶ分ヶ二方ヶ歩ヶ
相弦八ヶ矢弦ノ倍ヶ弧ヶ弧矢弦

実ヶ二百八三二ト弦五十七ヶ九分
相乘ヶ得二百四十七歩九分七
重此内ヶ右ノ歩数ヲ減ス余八
十二歩八一又此内ヶ加次加
ヘ歩数七ヶ九歩二分五リ五
二五減ス余三歩五分五
ヶ八七五倍ス七歩一分〇九五
実ニ加ヘ以法二百ヶ除ス
△実三ノ高九分也実一歩
ヶ分ニリ有又以法一桁除
心ノ四ノ高〇八毛ト見ル
右ノ通ノ物ノ△実四高
八毛ト知ル地則中央ノ
矢五十七ヶ九分〇八毛也ヲ
乘ス住二百ヶ二間ヶ引ク

乃物ヶ以テ知ヘシ
相又南ノ方ノ矢ヶ知ル矢千坪七千
九百坪ヶ南乃弧千五百坪ヶ別三一
六ヶ歩ヶ毛ヶ倍ノ六ヶ二ヶ歩相積
渡百ヶ毛ヶ通合ヶ方坪ヶ歩ヶ毛ヶ
六ヶ二ヶ別千五百八十二坪ヶ聖合弧ノ
七ヶ歩ヶ毛ヶ実平法ニ除ス三積九ヶ
七分八百ヶ歩ヶ毛ヶ相渡ス分シ家
ヶ川ヶ内ヶ川弧ヶ積ヶ。弧分割リ
毛ヶ右シ三積九ヶ七分八厘ヶ通ス
○六坪巻六ヶ歩ヶ毛ヶ方ト矢ノ直法

百四十二万〇九千二百七十二
則左右矢七十一万〇四百
六十六尺ト知ル
右図藏ル術見立之
図解但弧矢法ノ正法
攢蔵之ラ〇[illegible]
ヲ[illegible]ン歟

一一二五と知ル扨弧矢ハ
四万五千六百六十六分八厘と
七分八厘の内ヲ引ケバ三万二千
三百九十三分と
相又弧ハ弧矢弦ノ術ヲ以テ知ベシ
相図ハ八分句股ノ法ノ如クニ
[illegible]ベシ 但ハ
図法指引ノ如クニシテ或ハ不足ス
[illegible]或ハ止余ル
商数ト足合ル[illegible]加減ス[illegible]
[illegible]

右書ヨリ無術ヨリ始ル
法ヲ[illegible]ハ弧矢法
の正法ト事也[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

右巻ノ始ニ記ルトコロ数学ノ[illegible]
[illegible]ハ当術ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]